

体育科学習指導案

平成30年11月22日(木)第5校時

〇〇〇〇小学校3年1組(校庭)

授業の視点

「かかえ込み前回り」を習得するための練習に取り組む場面において、技のポイントの重要度を話し合い、考えたことを聞いたり伝えたりする活動を取り入れたことは、よりよい練習方法・ポイントを選んで練習をするために有効であろう。

1 単元名 B 器械運動 (イ 鉄棒運動)

2 考察

(1)教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 器械運動 イ 鉄棒運動

〔腹を鉄棒に掛けて前に回る（前方支持回転技群）支持系の基本的な前転グループ技〕

〔足を鉄棒に掛けて前に回る（前方支持回転技群）支持系の基本的な前方足掛け回転グループ技〕

教材の系統

				低学年	中学年	高学年
種目	系	技群	グループ	運動遊び	基本的な技 (発展技)	発展技 (更なる発展技)
鉄棒運動	支持系	前方支持回転技	前転	ふとん干し ツバメ 足 抜き回り ふたの丸焼き さる こうもり ぶら下がり 跳び上がり・ 跳び下り 前に回って下 りる	前回り下り(前方支持回 転) かかえ込み前回り(前方 支持回転) 転向前下り(片足踏み越 し下り)	前方支持回転(前方伸膝 支持回転) 片足踏み越し下り(横と び越し下り)
			前方足 掛け 回 転	○固定施設を使った運動 遊び ・ジャングルジム ・雲梯 ・登り棒 ・肋木	膝掛け振り上がり(膝か け上がり) 前方片膝掛け回転(前方 もも掛け回転)	膝掛け上がり(もも掛け 上がり) 前方もも掛け回転

②主な伸ばしたい(身につけさせたい)資質・能力

- ・支持系(前方支持回転技群)の基本的な技の行い方についての知識及びそれらを行う技能。
- ・技のできばえを視覚的にふり返りながら自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んだり、課題解決のために考えたことを伝えたりする力。

- ・誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたりする力。

③そのために必要な指導・学習活動

- ・示範演技や技の連続図等で技のポイントを示したり、自己の課題解決のために必要な練習方法を紹介したりして、繰り返し練習をさせる。
- ・自身の技のできばえについてタブレット等を用いて視覚的にふり返ったり、技のポイントに自分なりの順位をつけたりしながら自己の課題を見付けさせ、その課題解決に適した練習を選ばせる。また、自分自身が見付けた技のコツやできばえ等、自己課題の解決のために考えたことを言葉で伝えたり、「鉄棒運動リーフレット」として文や図で伝えさせたりする。
- ・友達同士で口伴奏や補助をお互いにさせたり、友達の取り組みの良さやお互いの考えを認め合う声掛けや拍手・ハイタッチ等の身体表現を意識させたりする。

(2) 児童の実態及び指導方針(男子11名、女子12名、計23名)

①本単元に関わる児童の実態

<知識及び技能>

本学級の児童は、低学年時において固定施設を使った運動遊びを経験してきているため、多くの児童が「ツバメ」「ふとん干し」「前に回って下りる」等の本単元で学習する技の「感覚づくりの運動」にあたる技能を身に付けている。しかし、「前方片膝掛け回転」「かかえ込み前回り」等の支持回転技を習得している児童はおらず、「運動の仕方(ポイントを含む)」や「運動を実施する前提となる学び方に関わる知識」を身に付けている児童もいない。

<思考力・判断力・表現力等>

本学級の児童は、思考・判断・表現する力は大変乏しく、普段の授業の課題解決的な学習の場面において、自分の考えをもったり伝えたりできる児童はほんの一部である。先日行ったマット運動の学習においても、自分の技のできばえや課題について自分で考えられる児童は少なく、がむしゃらに練習を繰り返していた児童が多かった。また、考えたことを友達に伝える表現力に関しては特に乏しく、技のポイント等を言葉で伝えることを苦手としている児童が大変多い。さらに、自分の意見を言葉で伝えるということに関しては、特別な配慮を要する児童が数名いる。

<学びに向かう力、人間性等>

器械運動に関するアンケートの結果から、本学級の児童の80%は「体育が好き」と答え、運動に進んで取り組める児童が多い。また、体育の授業に関するきまりを守って運動できる児童も多い。しかし、本単元で学習する鉄棒運動に関しては、「好き」と答えた児童は47%と半数に満たず、特に男子については「好き」と答えた児童は2名だけであった。鉄棒運動が「好き」と答えた児童は、その理由として「技ができると楽しいから」「いろいろな技があるから」等を挙げ、逆に「嫌い」と答えた児童は、その理由として「技ができないから」「体が痛いから」「怖いから」等を理由として挙げている。休み時間にはサッカーや鬼ごっこ等限られた遊びを行う児童が多く、鉄棒運動に親しむ経験が少ないことや、技のポイントや練習方法を知らないために技を習得できず、「自分なりにできる楽しさ」を知らないままあきらめてしまう児童が多いことがうかがえる。

②指導方針

<知識及び技能>

- ・児童主体の課題解決的な学習につなげるために、鉄棒運動リーフレットに「運動の仕方(技のポイント等)」と「運動を実施する前提となる学び方に関わる知識(練習方法等)」の2つの知識を印刷しておき、

確実に指導する。技のポイントを示す言葉については、児童の発達段階をふまえ、擬態語等の平易な言葉を使用するなどの工夫をする。

- ・授業の導入では、毎時間「感覚づくりの運動」を取り入れることで、多くの児童が「できる」ことから学習を始めるとともに、主運動に効果的につなげられるようにする。
- ・技の技能習得を確実なものとするために、技の系統を意識し、3年生では「前回り下り」「かかえ込み前回り」「転向前下り」「膝掛け振り上がり」「前方片膝掛け回転」等の前方支持回転技群の学習を中心に行い、4年生では後方支持回転技群の学習を中心に行う。
- ・知識・技能の確実な定着・向上により鉄棒運動の楽しさを味わえるようにするために、体育の時間だけでなく、週3回ある35分休み等の休み時間も児童が主体的に鉄棒運動に取り組めるよう継続的に声掛けを行い、運動の時間や頻度を確実に保証する。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・自己の運動の課題を見付けられるようにするために、タブレットの遅れ再生機能を利用して自分の動きを視覚的に振り返り、自分自身が苦手な部分等について学習カードの技の連続図に目印をつけたり、技のポイントに自分なりの順位をつけたりさせる。自己の課題を見付けにくい児童には、課題に気付けるように助言を行う。
- ・自己の課題が決まれば練習方法も簡単に選べるようにするために、つまづく動きとその練習方法を知識として教えておく。
- ・自分の考えを表現しやすくするために、友達の意見をよく聞いたり認めたりできる雰囲気を作っていく。また、配慮が必要な児童については、個別に支援を行う。
- ・グループでの話し合い活動が活発に行えるようにするために、グループ編成はグループ間が均等になるように行い、話し合いの際のリーダーをあらかじめ決めておいたり、話し合いシートに話し合いのポイントを明記しておいたりする。
- ・一人一人の児童が身に付けた力を友達に伝えられるようにするために、単元を通して「鉄棒運動リーフレット」を作成させる。リーフレットには、自己の学習の課題、効果のあった練習方法、参考になったこと、課題に対するふり返り等を書いたり貼ったりさせる。ふり返りカードについては、自己の課題に対する自己評価により、色を選択させる（赤…◎、黄色…○、青…△）
- ・児童同士が関わり合えるようにするために、「良い動きや憧れる動きを見付ける活動」を意図的に設定する。

<学びに向かう力・人間性等>

- ・鉄棒運動に進んで取り組めるようにするために、児童の課題に応じてできたところまでを積極的に称賛し、自信を持てるようにする。また、よい動きに拍手をしたり、うまくいったらハイタッチをしたりするなどの身体表現の仕方を教え、楽しい授業の雰囲気をつくっていく。
- ・落下による恐怖心を和らげるため、鉄棒の下にやわらかい砂を入れる。また、鉄棒の硬さによる痛みを和らげるため、鉄棒補助具を積極的に使用するよう促す。さらに、児童の技能のレベルに応じた補助を行っていく。
- ・自己の課題を解決することの楽しさが分かるようにするために、児童一人一人にそれぞれの学習のめあてをもたせるようにする。めあてについては、一単位時間の学習の振り返りをもとに次時の学習のめあてがもてるようにする。めあてがもてない児童については、個別に支援を行う。

3 単元目標

(1)知識及び技能

支持系(前方支持回転技群)の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けることができる。

(2)思考力・判断力・表現力等

自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

(3)学びに向かう力、人間性等

運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

4 評価規準

知識及び技能	支持系(前方支持回転技群)の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けることができる。
思考力・判断力・表現力等	自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

5 指導と評価の計画(全6時間)

学習過程	時	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
				知	思	学
課題把握	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈活動のめあて〉 試しの運動を通して、自分の挑戦したいことを見付けよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な運動の仕方を確かめる。 ・場の準備をする。 ・感覚づくりの運動のやり方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ふとん干し ・こうもり ・だんごむし ・ぶたの丸焼き ・ツバメ ・跳び上がり ・跳び下り ・前回り下り ・足抜き回り 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・試しの運動(前方片膝掛け回転)を行う。 ・学習の振り返りをし、次時のめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに学習が進められるよう、学習の進め方において、活動のめあてや安全な運動の仕方、場の設定の仕方等を確認する。 ・見通しをもって学習ができるよう、単元のまとめの発表会で自分ができるようになったことや考えたことを発表する機会を設けることや「鉄棒運動リーフレット」を作成しながら身に付けた力をまとめていくことを伝える。 ・本単元で学習する技がスムーズにできるよう、感覚づくりの運動に十分に取り組ませる。 ・試しの運動を行い、次時から学習す 			○

			る技に興味や課題をもてるようにする。			
課題 追及	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈活動のめあて〉 「前方片膝掛け回転」のやり方や練習の仕方を知って、挑戦してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動・感覚づくりの運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がり ・ツバメ ・跳び下り ・片膝掛け振り ・こうもり ・転向前下り </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「膝掛け振り上がり」「前方片膝掛け回転」のポイントや練習方法の説明を聞き、練習を行う。 ・動きの各ポイントを習得するために必要な練習方法を考える。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「前方片膝掛け回転」がスムーズにできるよう、感覚づくりの運動では動き方に関係が深いものを中心に組みさせる。 ・技のポイントや練習方法について確実に理解できるよう、技の連続図等の資料や示範演技で視覚的に説明を行う。 ・技のポイントを示す言葉については、児童の発達段階をふまえ、擬態語等の平易な言葉を使用する。 ・補助具の使い方や補助の仕方を指導する。 ・練習をする中で、自分にとって大切な技のポイントや練習方法を見付けられるよう助言をしていく。 ・次時の学習において自己の課題に応じた練習方法がスムーズに選べるよう、動きの各ポイントと練習方法が対応できるよう指導する。 ・学習の振り返りの際、次時にむけての自分のめあてをもてるようにする。 	○		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈活動のめあて〉 「前方片膝掛け回転」ができるようになるために、友達と相談しながら練習に取り組もう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動・感覚づくりの運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がり ・跳び下り ・片膝掛け振り ・転向前下り ・膝掛け振り上がり </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「前方片膝掛け回転」のポイントを確認する。 ・自分の課題にあった練習方法を選んで練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてを確認し、学習の見通しをもてるようにする。 ・前時に立てた個人のめあてを意識させる。 ・感覚づくりの運動の際にも個人の課題に応じた個別指導を行う。 ・技の連続図等の資料を用いて技のポイントや練習方法について確認する。 ・タブレットの遅れ再生機能で自分の動きを視覚的にふり返り、技のポイントに自分なりの順位をつけながら練習に取り組むよう声掛けをする。 ・技のポイントの順位について、グループで話し合う。 	○		

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い、発表する。 ・話し合いをもとに、もう一度練習する。 ・学習の振り返りをする。 ・試しの運動（かかえ込み前回り）を行い、次時のめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達と技を見合い、技のポイントやできばえについて伝え合う。 ・学習の振り返りでは、「個人のめあてに対する自己評価と次時の学習のめあて」「一番参考になった友達のアドバイスや練習方法」について考えさせる。 ・試しの運動をし、次時から学習する技に興味や課題をもてるようにする。 			
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈活動のめあて〉 「かかえ込み前回り」のやり方や練習の仕方を知って、挑戦してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動・感覚づくりの運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がり ・ツバメ ・ふとん干し ・前回り下り ・かかえ込み振り </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「かかえ込み前回り」のポイントや練習方法の説明を聞き、練習を行う。 ・動きの各ポイントを習得するために必要な練習方法を考える。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かかえ込み前回り」がスムーズにできるよう、感覚づくりの運動では動き方に関係が深いものを中心に組みさせる。 ・技のポイントや練習方法について確実に理解できるよう、技の連続図等の資料や示範演技で視覚的に説明を行う。 ・技のポイントを示す言葉については、児童の発達段階をふまえ、擬態語等の平易な言葉を使用する。 ・補助具の使い方や補助の仕方を指導する。 ・練習をする中で、自分にとって大切な技のポイントや練習方法を見付けられるよう助言をしていく。 ・次時の学習において自己の課題に応じた練習方法がスムーズに選べるよう、動きの各ポイントと練習方法が対応できるよう指導する。 ・学習の振り返りの際、次時にむけての自分のめあてをもてるようにする。 	○		
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈活動のめあて〉 「かかえ込み前回り」ができるようになるために、友達と相談しながら練習に取り組もう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動・感覚づくりの運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてを確認し、学習の見通しをもてるようにする。 ・前時に立てた個人のめあてを意識させる。 ・感覚づくりの運動の際にも個人の課題に応じた個別指導を行う。 ・技の連続図等の資料を用いて技の 	○		

		<ul style="list-style-type: none"> ・跳び上がり ・ツバメ ・ふとん干し ・前回り下り ・かかえ込み振り <p>・「かかえ込み前回り」のポイントを確認する。</p> <p>・自分の課題にあった練習方法を選んで練習する。</p> <p>・グループで話し合い、発表する。</p> <p>・話し合いをもとに、もう一度練習する。</p> <p>・学習の振り返りをする。</p>	<p>ポイントや練習方法について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの遅れ再生機能で自分の動きを視覚的にふり返し、技のポイントに自分なり順位をつけながら練習に取り組むよう声掛けする。 ・技のポイントの順位について、グループで話し合う。 ・グループの友達と技を見合い、技のポイントやできばえについて伝え合う。 ・学習の振り返りでは、「個人のめあてに対する自己評価と次時の学習のめあて」「一番参考になった友達のアドバイスや練習方法」について考えさせる。 		
まとめ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動・感覚づくりの運動を行う。 ・学習の進め方について知る。 <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈活動のめあて〉</p> <p>分かったこと・考えたこと・できるようになったことを発表しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会を行う。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会では、分かったこと・考えたこと・できるようになったことを発表し、お互いの学習の成果を認め合う。 ・児童の課題に応じてできたところまでを積極的に称賛し、自信を持てるようにする。 ・「良い動きや憧れる動きを見付ける活動」を意図的に設定し、児童同士が関わり合えるようにしていく。 	○	○

6 本時 (5/6)

(1) ねらい

「かかえ込み前回り」について、技のポイントの重要度を話し合い、考えたことを聞いたり伝えたりする活動を通して、よりよい練習方法・ポイントを選んで練習を行うことができる。

(2) 準備

教師：技の連続図等の掲示資料、鉄棒補助具、ホワイトボード（4枚）、タブレットPC（2台）、話し合いシート、振り返り用カード

児童：鉄棒運動リーフレット、探検バック、筆記用具、のり

(3)展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導 形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童への支援 ◇評価
1. 学習の進め方について知る。	2分	一斉	<p>・本時の学習の見通しをもてるようにするために、活動のめあてを提示するとともに、個人の学習のめあてを意識させる声掛けを行う。</p>
<p>活動のめあて 「かかえ込み前回り」ができるようになるために、友達と相談しながら練習に取り組もう。</p>			
<p>・自分なりのかかえ込み前回りの大切なポイントを見つけたい。</p>			<p>・自分の課題を見付けたり、課題解決のための練習をしたりするためには、グループの友達との協力が必要であることを確認する。</p>
2. 準備運動をする。	3分	一斉	<p>・怪我の防止につながるようにするために、体の各部位のストレッチを行う。</p>
<p>3. 感覚づくりの運動をする。</p> <p>・かかえ込み前回りにつながる動きだから、しっかりやろう。</p>	5分	一斉	<p>・本時に学習する「かかえ込み前回り」の練習にスムーズに取り組めるよう、感覚づくりの運動は「かかえ込み前回り」につながる動きを中心に行う。</p> <div data-bbox="679 1003 1362 1106" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・跳び上がり ・ツバメ ・ふとん干し ・かかえ込み振り 前回り下り</p> </div> <p>・楽しみながら感覚を養えるように、ふとん干しの姿勢でじゃんけんをしたり、10秒間で何回前回り下りができるかを競ったりする。</p> <p>◎運動が苦手な児童を中心に、個人の課題に応じて個別指導を行う。</p>
<p>4. 「かかえ込み前回り」のポイントや練習方法を確認し、自己の課題を見付けるための練習をする。</p> <p>・かかえ込み前回りのポイントは「脇の締めと脚の曲げ伸ばし」だな。</p> <p>・ぼくにとって一番大切なポイントは何だろう。</p> <p>・自分の動きを見ると、脇が開いて肘で支えられていないな。</p>	8分	一斉	<p>・連続図を示し、「かかえ込み前回り」のポイントを確認するとともに、上手にできる児童の示範演技を見て、連続図で確認したポイントを改めて確認する。</p> <div data-bbox="671 1496 1401 1845" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〈基本姿勢〉</p> <p>・脇をしめる ・肘を鉄棒につける</p> <p>〈運動のポイント〉</p> <p>・背中と膝を伸ばす ・遠くを見て大きく前に乗り出す ・脇をしめて、膝裏をしっかり抱える ・膝を曲げて引き寄せる ・肘で支えて膝を伸ばす ・最後は前回り下り</p> </div> <p>・練習する際には、「かかえ込み前回り」のポイントに自分なりの重要度を決めながら(順位をつけながら)練習に取り組むよう声掛けをする。</p> <p>・自己の課題を見付けられるよう、タブレットPCの遅れ再</p>

<p>・ぼくにとって一番大切なのは、「肘で支える」ことだ。</p>			<p>生機能を利用して自分の動きを視覚的に確認したり、友達や教師の助言を参考にしたりして、話し合いシートの連続図等に目印を付けさせる。</p> <p>◎怖くて一人で練習に取り組めない児童については、教師が補助につき、安心感を持てるようにする。</p>
<p>5. グループで「かかえ込み前回り」のポイントの重要度について話し合い、グループごとに発表する。</p> <p>・なるほど。そんな考えもあるんだ。</p>	7分	グループ	<p>・人によって課題が違うことや様々な考えがあることに気付けるようにするために、グループで「かかえ込み前回り」のポイントの重要度（順位）を話し合い、発表する活動を取り入れる。（グループとしての意見がまとまらなくてもよいことは予め伝えておく。）</p> <p>・自己の課題解決のためのヒントとなるように、大切な言葉を板書したり、グループ分けをしたりする。</p>
<p>6. 話し合いをした結果をもとに、「かかえ込み前回り」を習得するための練習に取り組む。</p> <p>・「肘で支えること」を覚えるためには「だるま振り」の練習と「友達の補助」が大切だな。やってみよう。</p>	15分	グループ	<p>・話し合いの結果をもとに、改めて自己の課題を確認させ、自己の課題にあった練習方法に取り組むよう声掛けをする。</p> <p>・グループの友達の技のできばえとリーフレットの連続図とを照らし合わせ、自分なりの言葉で友達にアドバイスをさせる。</p> <p>・グループの友達と助け合ったり教え合ったりしながら協力して練習に取り組むよう声掛けをする。</p> <p>・各グループを巡回しながら、友達と協力して練習できているグループの児童を称賛する。</p> <p>◎課題に合っていない練習方法を選んでいる児童には、助言を行う。</p> <p>◇技のポイントの重要度を話し合い、考えたことを聞いたり伝えたりする活動を通して、よりよい練習方法・ポイントを選んで練習を行っている。【思考力・判断力・表現力等】（発言・観察・リーフレット）</p>
<p>7. 学習の振り返りをする。</p> <p>・「かかえ込み前回り」で自分にとって一番大切なポイントが分かり、練習方法も選べてよかった。</p>	5分	一斉	<p>・自己の課題に対する自己評価をし、振り返りカードの色を選択させる（赤…◎、黄色…○、青…△）。振り返りカードには、「個人のめあてに対する評価と次時の学習のめあて」「参考になった友達のアドバイスや練習方法」について記入させ、数名に発表させる。</p> <p>・次時の見通しがもてるよう、次時は学んだことの成果を発表することを伝える。</p>